

カッサンドラ状態にある神経症に対する 柴胡加竜骨牡蛎湯の役割

ルリア記念クリニック（茨城県） 小徳 勇人

関係する他者が侵害性を帯び、家庭や公共・あらゆる社会機能を腐食するコロナ下の体制において、前世紀に克服したはずの神経症が蔓延している。現代のエディプス葛藤は去勢と排除で存在を消されている。患者の嘆き声は小さくか細い。柴胡加竜骨牡蛎湯により、抑圧から逃れ、自己への配慮に至った¹⁾症例から、カッサンドラ状態という補助線が有効であった現在の神経症治療を考えてみたい。

Keywords 関係性の病理、カッサンドラ状態、神経症の漢方療法、アスペルガー症候群、トラウマケア

はじめに

カッサンドラ状態とはアスペルガー症候群の伴侶と情緒的な相互関係を築くことの困難から生じてくる身体的精神的症状を指すが、近年では配偶者だけでなく、職場や教育現場のいじめやハラスメントの理解にも拡張された概念になりつつある。新型コロナ流行下の環境負荷のもと、既存の関係性が変化せざるを得ないなかで、神経をすり減らしながらも、相互理解を深めようとしている現状を報告する。

症例1

44歳女性。看護職からケアマネジャーに転身し、在宅系の包括支援センターで勤務、2児の母。

保険会社勤務の夫がリモートワークになり寝室を占領されてから、寝室が不潔に感じ同食することが嫌になる。「室外機の音が耳につき、集中できない」「夫が《ふう〜》とため息をつくだけで金縛りになり、食事ものどを通らなくなる」コロナでノイローゼになりそう！ と今は実家から職場に通っている。職場では男性の上司に付き纏われており、残業して帰ろうとしたら駐車場で待ち伏せされ実家まで追跡された。「髪のみだれは心の乱れ、今度僕がシャンプーしてあげよう」「君の声は声優の〇〇にそっくりだね、萌える！」もう職場にも行きたくない！！ と訴える。驚・怖・疑・惑の四戒を主徴に「誰にも理解や共感を得られない」という嘆きを認め、柴胡加竜骨牡蛎湯の証と判断した。服薬直後から被害的な感覚が薄れてゆき、便秘の改善とともにご飯を食べる気になったと。

クラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス細粒 6g分2を服用開始後2ヵ月ほどすると、リモートで働いている夫の好物を作ろうと仕事の帰りにスーパーで買い物をした。ストーカー上司が奥さんと一緒にいるのを見かけたので、「またシャンプーお願いします！」と悪女をしてやった！ 恐れなければ自分は負けない！ と思えたのがコロナの収穫でしたと。

症例2

59歳女性。大企業で開発グループの経理秘書を務める。コロナ下で資材・人材が滞り、上司から当り散らされることが多くなったため、状況を別の上司に相談するが却って「無能！」「給料泥棒！」と罵声を浴びせられ、出社することが怖くなり、不眠を主訴に受診する。産業医もパワハラ案件として対応してくれているが、自分はなにもしることができず、食事も食べなくてと思うだけで喉を通らず、眠りに堕ちるとすぐに動悸が始まり、呼吸ができなくなる。知らないうちに涙が出て、私はもう終わりだと思う。

心下痞、臍上部に拍動あり、脈浮弱。クラシエ柴胡桂枝湯エキス細粒 6g分2を処方する。

2週後再診した時には食事は摂れるようになるが、夜間に怒鳴り声が聞こえて飛び起きると汗が止まらず、動悸が暫く続き、気がつくとは外は白んでいる。体は重く痺れており、何をすることも億劫で、気がつくとは夕方になっていた。職場のことは気になるが、もうとてもあそこに戻れる気がしない。上司は大学院を出ていてとても優秀な人だった。私が足を引っ張ってキャリアに傷をつけてしまった。

声はか細いがわずかに艶を帯び、多少の張りが出てきたと感じ、クラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス細粒 6g分2に

替えて処方する。大便が緩くなる時は夕方1包に減量するように伝える。

初診から4週間後、夢をみたが忘れてしまったという。夢をみたのは眠れたからだと思い、嬉しくなった。職場のためにと思っていたが、仕事ができる人と思われたくて、ずっと尽してきた気がする。私は仕事以外何もすることがないという。処方をそのまま継続するので、植物でも育ててみたら？ と提案する。

初診から2ヵ月を経過したころ、「スーパーの花屋で見つけたアサガオの鉢が、紫の蕾をつけた」と笑顔をみせたので、水やりが続いていることを褒めると涙があふれてとまらなかった。水やりをしていると、すこしずつ当時のことを思い出せるようになり、ここで「はーやく芽を出せ柿のたね 出さぬとはさみでちょんぎるぞ♪」と歌っていたという。

休職から半年がすぎ、翌月で還暦を迎える。会社から連絡があり、上司の一人は定年退職し、もう一人の怒鳴った上司は総務課が遠方に異動させたので戻ってこないかと云われたと。仕事のことを考えても動悸や息苦しさはない。あの業務をこなすことを思うと億劫感がある。定年延長を申請させ、もう少し療養することを勧める。本人の希望で柴胡加竜骨牡蛎湯は継続している。

強い心的ストレスによりパニックを起こして、その後非定型の抑うつ状態に陥る症例はコロナ下で増加しており、適応障害で休職を余儀なくされるひとたちの社会復帰を阻む要因が意欲の喪失であり、脆弱性の露呈である。ハラスメントの被害者として紹介されて来院することも多いが、労働問題として加害者を処分しても、復帰の契機にはなりにくい²⁾。

< 解説 > 職場での外傷的なストレスでフラジャイルが露呈し、遷延する億劫感から脱出が困難になった症例である。当初、心下痞と脈浮弱を頼りに柴胡桂枝湯を処方している。これはストレスにより迷走神経が脾を刺激し、放出されたサイトカインによる炎症性不眠・不食に対する臓器保護を目的にしている³⁾。その後食が戻り、声の艶が出てきたタイミングで柴胡加竜骨牡蛎湯に変方しているが、定石で裏を補ってからという配慮であるが、臍上悸と入眠時の不安発作は既に柴胡加竜骨牡蛎湯であった。臍上悸はストレスによる瘀血の存在を顕しており、過ぎ去らない過去として抱え込んだ問題の重さを感じるべき徴である。

今回報告した2症例において、薬剤に起因すると考えられる副作用はみられなかった。

考察 - カッサンドラ状態と柴胡加竜骨牡蛎湯

トロイアの王女であったカッサンドラはアポロンの寵愛を受け、アポロンから予言を授かる巫女となる。授かった力でアポロンの変心を予知したカッサンドラはアポロンの愛を拒んだことで、逆鱗にふれ「誰もおまえの予言を信じない」と呪いをかけられる。

カッサンドラ状態の表記、診断については歴史的な変遷があり、筆者はアポロンに対するカッサンドラのエディプス複合に対して、アポロンの去勢が王女を狂人にしたと考えている。カッサンドラはギリシア軍が送り込んだ木馬を悪魔の仕業と糾弾したが、トロイアの民衆は歓迎して城門を開いた。

エウリピデス「トロイアの女たち」山形治江訳 論創社2012年

不安と抑うつの因果という文脈を診断名に含む神経症が打ち捨てられて久しい。カッサンドラは発達障害を社会が受容するまでの重要な補助線であり墓碑銘である。情緒的な関係性を拒み非人間的な仕打ちを行うものに対して、人間らしい反応を示して病に入った者はかつて神経衰弱というスティグマのない呼称があった。柴胡加竜骨牡蛎湯は神経症の適応があり、陰性症状の時期にもそれを持ちこたえる力となる処方である⁴⁾。治療者が自覚なくエディプストラウマを加え、去勢の態度に至らないことを願い、また自戒を込めて報告する。

アスペルガー症候群そのものがどのような存在かを理解することは困難である。カッサンドラという愛情剥奪者が生じて初めて対人関係の病理が明らかになることも多い。奇しくも症例2が「さるかに合戦」の異類関係やH・アーレントが傍聴して強い違和感を抱いたアイヒマン裁判の傍聴と報告(その後亡くなるまでアイデンティティの葛藤を抱え込むことになる)がカッサンドラ状態の構造を理解する参考になると思う。

H・アーレント「エルサレムのアイヒマン」久保和郎訳
みすず書房2017年

最後に

症例2は令和3年12月8日に産業医学財団から茨城県医師会が産業医研修事業として受託した「産業医と精神科医のケースカンファレンス」で発表し、討議をもとに加筆・修正しています。転載を快諾いただいた鈴木邦彦茨城県医師会会長に深謝します。

【参考文献】

- 1) ミシェル・フーコー: 性の歴史Ⅲ 自己への配慮. 田村侃訳, 新潮社 1987年
- 2) 鈴木國文: トラウマと未来 精神医学における心的因果性. 勉誠出版 2004年
- 3) エドワード・ブルモア: 「うつ」は炎症で起きる. 藤井良江訳, 草思社文庫2020年
- 4) 帯木蓬生: ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力. 朝日選書2017年